

園長のひとり言

9月のひとり言～「仏さまの指」～

「仏さまの指」というお話を紹介します。

「ある時、仏さまの前を重たい荷車を押した若者が通り、ぬかるみにはまって動けなくなってしまいました。一生懸命、そのぬかるみから、抜け出そうとその若者は必死になって荷車を押すけれど、なかなか抜け出すことができません。それを見ていた仏さまは見るに見かねて、その荷車に指をそっと近づけて下さいました。そうすると、その荷車はすっとぬかるみから抜け出すことが出来、若者は大喜びで再び前に進んで行きました。若者には仏さまの姿は見ておらず、仏さまの指の力もわかっていません。自分が頑張ったから抜け出すことが出来たと思い込み、大きな自信を持ったというお話です。」

この話の仏さまの在り方は、親、保育者の役割に似ています。相手には気付かれないようにちょっとだけ導いてあげる。次の段階へ進めるようにちょっとだけ手助けしてあげる。もしこの時、仏さまが「私が手伝ってあげようか」とか「今抜け出せたのは私が助けたからですよ」などと言ってしまうと、若者は仏さまに感謝こそすれど「よかった、よかった」と思うばかりで特に成長はありません。しかし、若者に気付かれないように手助けすれば、自分が頑張ったからぬかるみから抜け出すことが出来たと思うことができ「出来た」という気持ちが大きな自信となり、次なる力に繋がっていきます。それこそが親、保育者の役割ではないでしょうか。これから社会に羽ばたく子どもたちに是非「自分は出来るんだ」という自信を持たせることを大事にして頂きたいと思います。

これから始まる秋の季節、子ども達は運動会、文化祭、生活発表会などいろんなことに挑戦していきます。こども園でも、いろんな行事を通して子ども達の少しでも「出来た！」という声が多くなり、自信となるよう後押しをしていきたいと思います。